

彙 報

会 長 小 泉 保

平成元年度第1回常任委員会

日 時：平成元年4月23日（日）午後2時～5時

場 所：三省堂大阪支社

出席者 小泉 保（会長）、笥 壽雄、彫山太郎、崎山 理、佐藤昭裕、松本克己、藪 司郎（以上、常任委員）、近藤達夫（常任委員、事務局長）、下宮忠雄（編集委員長）、伊藤克敏（第98回大会運営委員長）。

議事ならびに報告：

- （1）昭和63年度決算報告。4月22日（土）午後、三省堂にて会計監査委員梅田博之、南不二男両氏による監査を受け、適正とみとめられた昭和63年度決算の報告があった。
- （2）平成元年度予算案の審議、決定。
- （3）第98回大会について。研究発表者の選定、プログラムの決定等を行った。
- （4）第99回大会について。
- （5）その他。
 - （a）委員井出祥子、荻野綱男両氏より会長に申し入れのあった大会における研究発表および『言語研究』への投稿に、共同発表者、共著者として会員でない者を含むことについて審議した。
 - （b）会長より、社団法人日本電子工業振興会主催翻訳技術フォーラム「翻訳における人間とコンピュータの調和」（4月26～28日、於大磯プリンスホテル）に、日本言語学会が協賛団体となったとの報告があった。
 - （c）九学会連合会の報告。

平成元年度第1回委員会

日 時：平成元年6月3日（土）午前10時～12時30分

場 所：神奈川大学本館第一会議室

出席者：小泉 保（会長）、井出祥子、井上和子、上野善道、大津由紀雄、大東百合子、荻野綱男、影山太郎、菊地康人、国広哲弥、近藤達夫、佐藤昭裕、柴田 武、柴谷方良、下宮忠雄、庄垣内正弘、杉藤美代子、鈴木孝夫、竹内和夫、田村すず子、土田 滋、角田太作、平山輝男、松本克己、村木正武、村山七郎、藪 司郎、吉田和彦（以上28名）。

委任状：31名。

オブザーバー：梅田博之（昭和63～平成2年度会計監査委員）、伊藤克敏（第98回大会運営委員長）。

議事ならびに報告：

- （1） 議事に先立ち、去る3月19日逝去された評議員江 実氏の冥福を祈り一分間の黙禱を捧げた。
- （2） 平成元年度第1回常任委員会の報告。
- （3） 昭和63年度決算報告が承認された。別表1参照。これは、1989年4月22日（土）会計監査委員梅田博之、南 不二男両氏より、適正であると認められたものである。
- （4） 平成元年度予算案が審議され承認された。別表2参照。
- （5） 第98回大会について。会長がプログラムの概要を報告し、大会運営委員長伊藤克敏氏が開催校としての説明をした。
- （6） 第99回（平成元年度秋季）大会の開催校は、関西学院大学とすることが決定され、大会運営委員長を成田義光氏とすることが報告された。
- （7） 日本学術会議第十四期語学文学研究連絡委員会委員柴田 武氏より同委員会の報告があった。
- （8） 文部省「新言語学用語集」について。専門委員小泉 保、国広哲弥両氏から、その後の経過報告があり（『言語研究』第87号彙報参照）、専門委員3名を補充したいとの意向が表明され、審議した結果、補充することとし、3名連記の投票を行なった。その結果は次の通り。

上野善道, 松本克己, 土田 滋 (次点者: 柴谷方良, 次々点者: 梅田博之)。

上野善道氏から辞退したいとの希望が表明され, 審議した結果, これを認めることとし, 次点者柴谷方良氏を繰り上げて補充委員とすることにした (その結果次々点者梅田博之氏が次点者となる)。

(9) その他。

- (a) 委員井出祥子, 荻野綱男両氏より会長に申し入れのあった大会における研究発表および『言語研究』への投稿に, 共同研究者, 共著者として会員でない者を含むことについて, 両氏の「いずれも半数以上が会員であればよい, あるいは会員がひとり以上含まれていればよい」との提案について審議したが結論がでず, 次回委員会で継続審議することとした。
- (b) 社団法人日本電子工業振興会主催翻訳技術フォーラム「翻訳における人間とコンピュータの調和」(4月26~28日, 於大磯プリンスホテル)に日本言語学会が協賛団体となったことが会長から事後報告され, 承認された。
- (c) 九学会連合会について, 同委員徳川宗賢氏(欠席)にかわり, 会長が, 第43回(最終回)九学会連合大会のもようなどについて報告した。

【別表1】 昭和63年度 日本言語学会決算

自 昭和63年4月 至 平成元年3月

(単位 円)

収 入		支 出	
科 目	金 額	科 目	金 額
B 会 費	7,530,538	1 刊 行 費	5,121,852
C 雑 誌 売 上	2,271,900	2 編 集 費	200,000
D 文 部 省 補 助 金	540,000	3 学 会 事 務 セ ン タ ー 委 託 費	1,530,851
E 預 金 利 息	7,960	4 大 会 関 係 費	804,600
F 雑 収 入	67,000	5 委 員 会 費	117,500
		6 常 任 委 員 会 費	193,120
		7 九 学 会 連 合 会 費	80,000
		8 C I P L 負 担 金	56,780
		9 選 挙 関 係 費	0
		10 通 信 費	180,140
		11 事 務 費	608,687
		12 設 備 費	0
		13 事 務 局 職 員 謝 金	703,500
		14 記 念 事 業 費	1,104,932
		15 雑 費	0
収 入 合 計	10,417,398	支 出 合 計	10,701,962
A 前 期 繰 越	2,002,937	次 期 繰 越	1,718,373
計	12,420,335	計	12,420,335

◇ 支 出 内 訳		(単位 円)
1. 刊 行 費		
第 94 号 (148 ページ)		1,439,392
第 95 号 (312 ページ)		3,682,460
3. 大 会 関 係 費		
第 96 回 大 会		321,500
第 97 回 大 会		483,100
10. 通 信 費		
東 京 事 務 局		92,400
大 阪 事 務 局		87,740
11. 事 務 費		
	(一般事務費)	(交 通 費)
東 京 事 務 局	142,468	85,380
大 阪 事 務 局	57,639	323,200
14. 記 念 事 業 費		
50 周 年 記 念 大 会 費		120,000
50 周 年 記 念 パーティー補助		120,000
大 会 配 布 用 50 年 の 歩 み		230,532
「言語研究」別冊		634,400

【別表2】 平成元年度 日本言語学会予算

自 平成元年4月 至 平成2年3月

(単位 円)

収 入		支 出	
科 目	金 額	科 目	金 額
B 会 費	7,400,000	1 刊 行 費	4,500,000
C 雑 誌 売 上	1,000,000	2 編 集 費	400,000
D 文 部 省 補 助 金	540,000	3 学 会 事 務 セ ン タ ー 委 託 費	1,600,000
E 預 金 利 息	10,000	4 大 会 関 係 費	1,000,000
F 雑 収 入	0	5 委 員 会 費	150,000
		6 常 任 委 員 会 費	200,000
		7 九 学 会 連 合 会 費	80,000
		8 C I P L 負 担 金	80,000
		9 選 挙 関 係 費	0
		10 通 信 費	250,000
		11 事 務 費	800,000
		12 設 備 費	0
		13 事 務 局 職 員 謝 金	700,000
		14 選 挙 関 係 等 準 備 積 立 金	500,000
収 入 合 計	8,950,000	15 予 備 費	400,000
A 前 期 繰 越	1,718,373	16 雑 費	8,373
計	10,668,373	計	10,668,373

第98回大会

期 日 平成元年6月3日(土)・4日(日)

会 場 神奈川大学

第1日(6月3日)

開会の辞 午後1時より

公開講演

《心理言語学の諸問題》

司 会 国 広 哲 弥

人間の言語化における概念の構造の解明とその体系化について

入 谷 敏 男

文理解の過程における統語解析

大 津 由 紀 雄

最近の言語習得研究の問題点

伊 藤 克 敏

会員懇親会 午後5時30分～7時30分

第2日(6月4日)

研究発表 午前10時～12時20分

◦ A 会場

(A1) 日本語の動詞活用形の起源

藤 原 明

(A2) アイヌ語とオーストロネシア語との語彙関係

村 山 七 郎

(A3) ンデベレ語の子音体系と子音クラスター

中 川 裕

(A4) ニランバ語動詞の語幹冒頭と接頭辞

湯 川 恭 敏

◦ B 会場

(B1) 日本語のリズムとモーラの時間的直線性

大 竹 孝 司

(B2) Connected Speech における perceptual unit
とリズム

河 野 守 夫

(B3) 日英語の動詞形成過程における意味的制限

小 田 弘 美

武 井 朗 子

(B4) 受動性主語をもつ文にあらわれる「ニ」の意味・
用法

堀 川 智 也

◦ C 会 場

(C1) A Study of Some Common Verbs in
Doctor-patient Oral Interaction

野 中 慶 子

(C2) 振り仮名付き日本語の活字表記のあり方について

船 津 好 明

(C3) 母国語話者による外国人の作文の誤用判定

遠 藤 裕 子

大 井 恭 子

(C4) Halliday の Functional Grammar の
テキスト分析への応用の紹介

——新聞分析を中心として——

古 岩 井 嘉 蓉 子

会 員 総 会 1 時 ~ 1 時 30 分

研 究 発 表 午 後 1 時 30 分 ~ 3 時 50 分

◦ A 会 場

(A5) 『[満文] 大清太祖武皇帝実録』の借用語表記から
見た漢語の牙音・喉音の舌面音化について

山 崎 雅 人

(A6) 象形文字ルウィ語の人称代名詞奪格形について

大 城 光 正

(A7) ロシア語形動詞構文におけるテンスについて

北 上 光 志

(A8) ロシア語の節構造のタイプと要素の取り出し
可能性

匹 田 剛

◦ B 会 場

(B5) 付加疑問文

村 上 泰 子

(B6) 「ない」による否定の作用について

服 部 匡

(B7) Spec-XP のカスケード

高 橋 孝 二

(B8) “赤い日時計”は時制を有するか？

安 仁 屋 宗 正

◦ C 会 場

(C5) 韓国人留学生の日本語使用における
漢字音・漢字語の誤りについて

近 藤 清 兄

(C 6) 在米韓国人の韓国語・英語の使い分けについて

——場面, 話し相手, 意識との関連をめぐって——

任 栄 哲

(C 7) 日本語と韓国語の敬語用法の対照研究の諸問題

荻 野 綱 男

金 東 俊

梅 田 博 之

羅 聖 淑

盧 顕 松

福 田 麻 子

閉会の辞

◇ 受贈図書リスト (昭和63年12月1日～平成元年6月30日)

- 音声学会会報 第189号 (日本音声学会 1988)
- 外国文学研究 82, 83-1988, 84-1989
(立命館大学外国語科 連絡協議会 1988～89)
- 近代英語研究 第5号 (近代英語協会 1988)
- 計量国語学 16巻7号-1988, 16巻8号, 17巻1号-1989
(計量国語学会 1988～89)
- 語学研究 Vol. 3 No. 1 (国際基督教大学 1988)
- 国語学 155-1988, 156-1989 (国語学会 1988～89)
- 国立国語研究所年報 昭和62年度 39 (国立国語研究所 1988)
- 史苑 第49巻 第1号 (立教大学史学会 1989)
- 宗教研究 278 第62巻 第3輯 (日本宗教学会 1988)
- 人文・社会科学論集 第3号-1988, 4号-1989
(聖泉人文・社会学会 1988～89)
- 人類科学 41 (九学会連合 1988)
- 専修 語学ラボラトリー論集 第17号 (専修大学LL研究室 1988)
- 地域文化の均質化に関する総合的研究 (研究代表 本明寛)
(九学会連合 1989)
- 中国語文 1 (中国社会科学出版社 1989)
- 朝鮮学報 第百二十九輯-1988, 百三十輯-1989 (朝鮮学会 1988～89)
- 朝鮮通信使と江戸時代の人々 (東京天理教館 1989)
- 通信 第64号-1988, 65号-1989
(東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 1988～89)
- 東京大学言語学論集 '88 (東京大学文学部言語学研究室 1988)
- 東方学 第七十七輯 (東方学会 1989)
- 東方学会報 No. 55 (東方学会 1988)
- 東洋音楽研究 第53号 (東洋音楽学会 1988)
- 東洋学文献類目 1986年度
(京都大学人文科学研究所附属東洋学文献センター 1988)

東洋学文献類目 1986年度 補選版

(京都大学人文科学研究所附属東洋学文献センター 1988)

東洋学報 第69巻 第1・2号, 3・4号

(東洋文庫 1988)

都大論究 第26号

(東京都立大学国語国文学会 1989)

名古屋学院大学外国語教育紀要 No. 19

(名古屋学院大学外国語教育研究センター 1988)

日本学術会議月報

第29巻12月号, -1988, 第30巻1月~6月号-1989

(日本学術会議広報委員会 1988~89)

日本語研究 第10号

(東京都立大学国語学研究室 1988)

日本常民文化紀要 第14輯

(成城大学大学院文学研究科 1989)

日本の沿岸文化 (九学会連合 日本の沿岸文化調査委員会編)

(古今書院 1989)

日本民俗学 174, 175

(日本民俗学会 1988)

文学研究 第86輯

(九州大学文学部 1989)

法政大学文学部紀要 第34号

(法政大学文学部 1988)

民族語文 5

(中国社会科学出版社 1988)

みんぱく 12月号-1988, 1月~6月号-1989

(国立民族学博物館 1988~89)

山口国文 第12号

(山口大学人文学部国語国文学会 1989)

山口女子大学研究報告 自然科学 第2部 第14号 (山口女子大学 1988)

山口女子大学研究報告 人文・社会科学 第1部 第14号

(山口女子大学 1988)

山口大学文学会志 第39巻

(山口大学文学会 1988)

蘇った遙なる邪馬臺国 (橋詰和人著)

(土佐上古代史研究所 1987)

論集 43

(神戸大学教養部 1989)

Acta Asiatica 56

(東方学会 1989)

ArOr Vol. 56 4-1988, Vol. 57 1-1989

(Academia Praha 1988~89)

Вестник Ленинградского Университета 4-1988, 1-1989

(Ленинград 1988~89)

Bulletin No. 122-1988, No. 123-1989

(The Linguistic Society of America 1988~89)

Bulletin de la Société de Linguistique de Paris Tome LXXXIII

Fascicule 1, 2 (Société de Linguistique de Paris 1988)

Bulletin of the School of Oriental and African Studies

Vol. LI Part 3 (University of London 1988)

English Linguistics Vol. 5 (日本英語学会 1988)

Idun VIII (大阪外国語大学デンマーク・スウェーデン語学科研究室 1988)

Language Vol. 64 No. 4-1988, Vol. 65 No. 1-1989

(The Linguistic Society of America 1988~89)

Max Niemeyer Verlag I (Max Niemeyer Verlag 1989)

The MIT Press: Spring 1989 (The Mit Press 1989)

Naše řeč 4, 5-1988, 1, 2-1989

(Academia nakladatelství Československé akademie věd 1988~89)

Русская Литература 3, 4 (Академия Наук СССР 1988)

Русский Язык в Школе 6-1988, 1-1989 (Просвещение 1988~89)

Slovo a Slovesnost

XLVIII 4-1987, XLIX 4-1988, L 1, 2-1989

(Československá Akademie Oriental Institute Čsav 1987~89)

Soviet Analyst Vol. 18 No. 4, 5 (Soviet Analyst 1989)

Symposion 3-1988, 4-1989 (ドイツ語学文学研究会 1988~89)

Tekeningen van Nojorkam (Institute Classical Arts 1989)

Two Essays on the Formation of the East Asian

Ethnic World (Suwa, Tetsuo)

(東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 1989)

- ◇ 平成元年度春の叙勲において、本学会会員増山節夫氏は、勲三等旭日中綬章を受章されました。本学会として、心からお祝い申し上げます。



- ◇ 本誌は、文部省平成元年度科学研究費補助金（研究成果公開促進費）の交付を得て刊行されたものである。